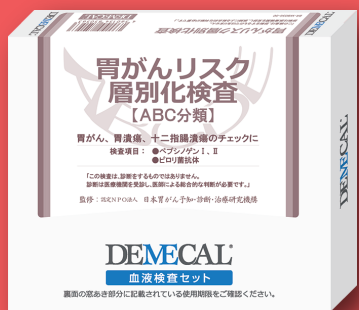


ピロリ菌感染の有無と胃の萎縮具合で胃がんリスクの程度を層別化



<認定NPO 法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 監修>

胃がんリスクチェック 層別化検査

希望小売価格(税別)

9,000円

検査項目

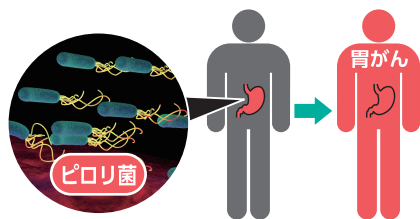
- ピロリ菌抗体 —— ピロリ菌の有無を判定(判定基準:3.0U/ml)
- ペプシノゲンI・II —— 胃の炎症や胃粘膜の萎縮程度を判定

ピロリ菌検査は
生涯1度の検査

感染由来である胃がんの対策として、がん罹患するリスクを確認して、ハイリスクである有所見者は除菌、精密検査を行うことが重要です。「胃がんリスクチェック」は早期発見・早期治療に導くための層別化(ABC分類)検査です。

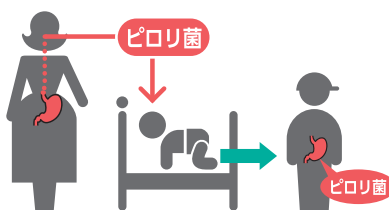
胃がんは「ピロリ菌」による感染症

「子宮頸がん」、「肝臓がん」の多くがウイルス感染が原因であることと同じように、近年、「胃がん」もヘリコバクター・ピロリ菌による感染症であることが判明しています。



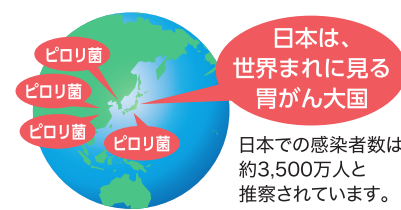
「ピロリ菌」の感染は幼少期

井戸水が生活用水の時代に感染が広がり、現代では、胃の中の酸性が弱くピロリ菌が生きのびやすい「幼児期」に、ピロリ菌に感染している大人からの食べ物の口移しなどにより感染すると言われています。



東アジアの「ピロリ菌」は強毒

日本、韓国、中国といった東アジアのピロリ菌の型は、欧米諸国のものに比べて強毒です。また、東アジア諸国の「胃がん」の発生率、死亡率は欧米に比べて著しく高いことも発表されています。



現在、国内の死亡原因の1/3が「悪性新生物(がん)」によるものです。

中でも「胃がん」は、「がん部位別死亡順位」では、*男性は2位、女性では3位となっています。

しかし、早期発見できれば5年生存率が90%と高く、「早期発見・早期治療」が重要だと言われています。

胃の調子が気になる、検査をしたいけど時間がない、バリウムは苦手。胃カメラはちょっとこわくて・・・そんな方にまず自宅のできる「胃がんリスクチェック」をお勧めします。

胃がんリスク層別化判定

認定NPO法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構
「胃がんリスク層別化検査管理指針」を元に作成

ABC分類	ピロリ菌抗体	ペプシノゲン値	胃粘膜状態の予測	1年間の胃がん発生頻度の予測	胃がんの危険度
A群	- (陰性)	- (陰性)	おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。	ほぼ0人	胃がんになりにくい
B群	+ (陽性)	- (陰性)	少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。	1,000人に1人	↓
C群	+ (陽性)	+ (陽性)	ピロリ菌感染により、胃粘膜の萎縮が進行し、胃がんになりやすくなっています。	500人に1人	
D群	- (陰性)	+ (陽性)	ピロリ菌が住めなくなるほど胃粘膜の萎縮が進行し、胃がんになりやすくなっています。	80人に1人	
E群	胃がんリスク判定の対象外		医療機関でピロリ菌除菌治療を受けた方はE群です。除菌後も経過観察が必要です。		

※判定がA群でも、自覚症状のある方は、医師へ相談してください。

*厚生労働省「平成29年人口動態調査」より

取扱代理店

入交クリエイト株式会社

東京支店 〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目7番19号8階

本社 〒781-0112 高知県高知市仁井田 4563-1

TEL 0120-28-7721

発売元

株式会社 リージャー

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-33-8 アクセスビル2F

TEL:03-5645-7371 FAX:03-5645-7039

http://www.leisure.co.jp